

第9回地域がん登録全国協議会総会研究会を終えて

岡本 直幸
神奈川県立がんセンター

1. 総会研究会について

標記の会を2000年9月14日に開催し、無事に終了いたしましたことをご報告申し上げます。北は北海道から南は沖縄県まで、233名の方々に参加していただきました。

今回の研究会では「生活環境モニタリングとしての地域がん登録の役割」をメインテーマとして、水質汚染(中平浩人氏、新潟大学)、電磁場(兜 真徳氏、国立環境研)、放射線(久住静代氏、放射線影響協会)、大気汚染(祖父江友孝氏、国立がんセンター)、ダイオキシン(山口直人氏、国立がんセンター)のモニタリングに関して、地域がん登録はいかなる役割を担うことができるのかを、シンポジウム形式で討議を行いました。各演者より、環境汚染が進行する今日、健康影響を集団レベルでサーベイするためには地域がん登録の資料は不可欠であるという報告をいただき、地域がん登録を実施している立場からは心強い支持をいただいたと思われまふ。しかし、現状での役割は低く、真に有益な資料になるためには、より一層の精度向上が望まれています。関係者一同、改めて地域がん登録の届け出精度を上げる努力が必要であることを確認いたしました。

特別講演として、長崎大学の学長を務めておられる池田高良先生に「原爆とがん登録」というタイトルにて、「世界で唯一の被爆国日本における原爆被爆の影響」と「地域がん登録が果たしている役割」についてのお話をうかがいました。被爆の影響を長期に観察するためには、「地域がん登録」の果たす役割がいかに大きなものかを改めて認識させていただきました。

特別報告では、現在、医学研究や疫学・公衆衛生で論議の要となっています「個人情報保護基本法」について、「公衆衛生と個人情報保護の沿革と今後のあり方」という課題で瀬上清貴氏(千葉県健康福祉部)にご講演をいただきました。現状の基本案で立法化されると「地域がん登録」自体の業務が成り立たなくなること、対応として「公衆衛生のため」という例外の設定を求めるときではないか、という主旨のお話をいただきました。ご承知のように、平成12年10月11日に公表された「個人情報保護基本法に関する大綱」によれば、適用除外の項で「公共の安全・秩序の維持又は公衆衛生等の公益上の必要性から特別の配慮が求められる場合等が少なくなく、

本基本法制の各規定の趣旨を勘案し、…」という文が加筆され、この個人情報保護基本法からは除外する方向で調整措置がなされるであろうという方向性が示されました。今後の動向に、注目したいと思ひます。

教育講演としては、近年、罹患や死亡の増加が著しい前立腺がんについて、「前立腺がんの日米比較病理疫学的研究」という題で、私どものがんセンター臨床研究所長原田昌興氏にご講演をお願いいたしました。病理学的視点からの日米の比較ならびに白人と黒人の相違などを報告され、前立腺がんの罹患、死亡の地域差・人種差の解釈に新しい視点を提供していただいたと思ひます。また、初めての試みとして、ポスターセッションを取り入れてみましたが、予想を超える11題のエントリーがあり、会場は各登録室の交流の場として盛り上がりまふ。今後も、各登録室の交流の場となるように継続を希望しています。

さて、次回の第10回総会研究会は大阪市において、大島 明先生のもとで行われます。精度の向上した資料を持って、また、皆さんとお会いいたしまふ。

ありがとうございました。

2. 実務者研修会について

総会研究会の前日の午後、神奈川県立保健教育センターにおいて、地域がん登録の実務者研修会をおこないました。研修の内容として二つのセッションを設けました。ひとつは地域がん登録で高頻度に利用する統計の入門コース(講師は西野善一氏、小笹晃太郎氏、小山幸次郎氏、陶山昭彦氏)、もうひとつは地域がん登録に関する既存のコンピュータプログラムのパソコン実践(講師は高山喜美子氏、井上真奈美氏、味木和喜子氏、木下洋子氏)でありました。統計学入門では、年齢調整罹患率・死亡率の算出方法、SIR・SMRの計算方法、相対生存率の計算方法、観察人年法などに関して講義を行い、パソコン実習ではIACR開発のWCONVERT、EUCAN90、CI5Vol. VIII、GLOBOCAN、院内がん登録プログラム(Access版、ファイルメーカーPro版)などのプログラムを22台のマシンを利用して実習いたしました。参加人数は、78人でした。

このような研修会が、日々の地域がん登録の実務作業に役立つことを願っています。また、今後も、継続して実務者研修会が開かれますことを希望しています。

最後になりましたが、講師を引き受けていただきました先生方、参加していただきました皆様方、心よりお礼申し上げます。